

北海道ブロッククラブネットワークアクション 2019 開催報告

日 時： [1 日目] 令和元年 10 月 26 日（土） 13：00 ～ 17：00
[2 日目] 令和元年 10 月 27 日（日） 9：00 ～ 12：00

会 場：北海道立総合体育センター（北海きたえーる）

内 容：テーマ：「未来への一歩 2019／令和時代の総合型クラブ」

[1 日目]

1. 共通プログラム「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」
2. グループワーク「やってみよう！登録・認証申請」（模擬申請＋ワーク）

[2 日目]

1. 講演「大丈夫？あなたのクラブ／社労士からのアドバイス」
2. 事例発表「Uターンで頑張ってます」（クラブ紹介など）

参 加 者：67 名

【概要】

今年度は、登録・認証制度への理解をさらに深めることを主目的に、これからのクラブ運営の安定化を願い、さらに一歩踏み出したいとの思いから「未来への一歩 2019／令和時代の総合型クラブ」をテーマに掲げました。

初日は、現段階で予定している登録・認証制度の申請書類を参加者に記入してもらい、その感想を踏まえたグループワークで北海道独自基準を考えていただきました。

2 日目は、法人化するクラブが増える中、法人としてのクラブ運営について社会保険労務士から法令的観点でのアドバイスをいただきました。また、故郷にUターンして活動している 3 クラブの若手スタッフに、クラブの現状や将来の夢、希望を語ってもらいました。

【内容】

[1 日目]

共通プログラム「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」

2021 年度からの運用が予定されている総合型クラブ登録・認証制度について情報共有を図るため、「総合型クラブ登録・認証制度の創設に向けた情報共有」をテーマに共通プログラムを実施しました。

SC 全国ネットワーク幹事長の伊端が制度創設の経緯・意義について、日本スポーツ協会事務局が制度の具体的な内容について、それぞれ説明を行った後、質疑応答を行いました。

参加者からは「登録することのメリット・デメリット」や「行政とのかかわり」に関する質問が多く出されました。



グループワーク「やってみよう！登録・認証申請」

登録・認証制度の申請書類に直接記入してもらい、申請への疑問点やそれぞれのクラブの課題を具体的に把握することを目的に実施しました。

申請書類の記入方法について、実行委員長の伊端が説明し、参加者が実際に記入した後、5~6人の12グループに分かれて、記入後の感想や北海道独自のルールについて話し合いました。

参加者によると、クラブマネージャーなどクラブ運営に深く関わっている人にとって申請書類への記入は比較的簡単だったようですが、そうでない方々には少し難しかったようでした。

一方、申請時に提出を求められる可能性が高いガバナンスコード・セルフチェックシートの記入方法についても伊端が説明しました。このチェックシートは、現在の取り組みや今後の取り組みについて書きづらい面があるため、書き方のポイントを説明し、おおむね理解を得ました。

グループワークでは、適切なスポーツ指導者の配置の中で「日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者以外も資格として認めるべき」など、資格についての要望の声が多く寄せられました。

また、定期的なスポーツ活動の開催回数について「年間24回以上」とする基準に「24回は多い」「ウィンタースポーツは無理」などの意見も寄せられました。

北海道の独自ルールとしては①指導者の定義を広くする②多種目の定義に文科系プログラムも含める③クラブの特色（アピール項目）記入欄を設ける、などの提案がありました。



[2日目]

講演「大丈夫？あなたのクラブ／社労士からのアドバイス」

社会保険労務士事務所テラス所長の倉雅彦さんが『働きがいのある職場づくりのために』をテーマに講演しました。

倉さんは、労務管理、職場の風土管理、健康管理について、働き方改革の概要に加え、注意すべき点にアドバイスを与えました。

労務管理とは「労働時間、労働条件、労働環境など職員が快適にそして安全に働くことができること」。職場の風土管理では「職員の意欲を引き出すために職員相互の認め合い、助け合い、支え合いができる職場づくりが大切」。健康管理では「職員の健康状態を把握し、病気の早期発見、治療支援、治療と仕事の両立を」と呼びかけました。

さらに「時間外労働の上限規制が導入され人手不足を残業でまかなうことができなくなる」「年次有給休暇の確実な取得が必要」などとアドバイス。

参加者からは、「参考になった」、「クラブに持ち帰って広めたい」などの感想が聞かれ、今後のクラブ運営において、その環境を見直すきっかけとなりました。



事例発表「Uターンで頑張ってます」

事例発表では、故郷にUターンして活動している、落部スポーツクラブの掛村陽介さん、びふかスポーツクラブの小林莉奈さん、北斗スポーツクラブの小山内望恵さんの3人がクラブの現状や将来の夢について意見を述べました。

一度故郷を離れて生活したことによって生まれ故郷への思いが強くなったこと、その思いを持ってクラブ運営に携わっている様子が伝わり、参加者の刺激になったようです。

今回の発表から、若い力がしっかりと育っていると感じました。また、総合型クラブが若い人材の活躍できる場になるよう、SC北海道ネットとしてサポートしていきたいと思いました。



左から掛村陽介さん、小林莉奈さん、小山内望恵さん

【まとめ】

- ・ SC北海道ネットは、登録・認証制度について、機会あるごとに説明を繰り返しておりますが、今回の模擬申請でさらに理解が深まったものと考えます。ただ、グループワークでの意見にもあるように疑問点もまだあり、これからもクラブ目線で、中間支援組織を想定している北海道スポーツ協会との連携を密にしながら、この制度の定着、安定を目指していきます。
- ・ SC北海道ネットはこれまで、様々な研修機会に、クラブの課題や悩みにこたえるテーマを設定。クラブ自慢などクラブを紹介する場面を多くつくり、各クラブの実情を聴くことで自らのクラブを振り返るきっかけにしようとグループワークの機会も設けてきました。今回初めて取り入れた社会保険労務士の講演は、国の働き方改革もあってタイムリーな企画となり、法人化するクラブが増える中で多くの参加者に喜ばれ、今後の研修の在り方を考えるヒントになりました。
- ・ ともあれ、2日間で得た情報から何らかのヒントを得、それぞれのクラブの今後の運営にいささかでもプラスになったなら幸いです。

(北海道ブロッククラブネットワークアクション実行委員長 伊端 隆康)

※本ネットワークアクションは、東京2020応援プログラム(スポーツ・健康)として実施しました。